

## 教材活用シリーズ 第145回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

### 「誰一人取り残さない」を キーワードにした教材の開発



(株)秀学社 編集部



#### 動き出した教育の情報化

「誰一人取り残さない」が、Society5.0といわれる次世代の社会のキーワードであり、我々が目指す教材の開発も軌を一にします。しかしながら教育業界はようやく情報社会(Society4.0)に入ろうとしたところです。

2019年末に文科省が教育の情報化政策としてGIGAスクール構想を打ち出しました。この構想のポイントは以下の二つのハード面です。ひとつ目は、タブレット端末を義務教育すべての児童・生徒にゆきわたらせること。二つ目はそれを円滑に活用するために高速通

信回線を整備することです。2021年3月末に小・中学校にはタブレット端末がほぼゆきわたる、2021年7月時点でのタブレット端末の整備率は96%（文科省発表）です。一部の私立学校やデジタル先進校ではタブレット端末は既に導入されていましたが、先進国のなかで日本のデジタル化の極めて貧弱な状況がようやく改善されることとなりました。皮肉なことにコロナ禍による一斉休校がリモート授業やハイブリッド授業を押し進め、一気に加速しました。現在、さらなる普及を目指して文科省が教科書発行者の協力のもと、全国4割の学校で学習者用デジタル教科書普及促進事業を進め、

さらに来年度も同事業を延長することになっています。そして2024年度を本格導入の最初の契機とし、デジタル教科書に対応した検定制度の見直しや、学習指導要領のコード化による教育データの標準化が検討され、2029年度に本格導入するというシナリオです。

#### 教材のハイブリット化

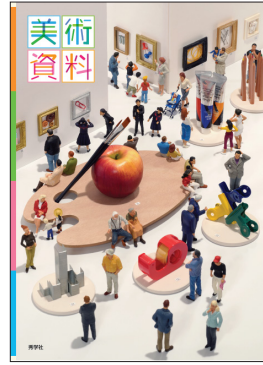
さて百年以上の歴史をもつ紙の教科書と黒板とチョークによる授業は崩れ去るのでしょうか。授業形態こそ変わりますが、教育の本質が一気に変わることはないと考えます。AIドリルとか、AI〇〇とかは一見適正解を効率よく導きますが、本来の教育の在り方として正解でしょうか。それではどのような教材がこれからの教育で求められるのでしょうか。それはリアル、オンラインを問わないハイブリットな対応ができる教材です。

弊社では『美術資料』や『新国語便覧』、『E-PILOT』といった資料集のカテゴリーと、『新しい国語のワーク』や『くりかえし漢字』、『かんたん文法』、『E-PLUS』といったワーク類のカテゴリーを多数取り揃えています。ほかに『英単語99%』や、日本文教出版教科書完全準拠版『研究ノート』を発売しています。

資料集は教科書を補完・深化させるもの、ワーク類は自学自習、ひいては家庭学習に直結するものですが、いずれもタブレット端末活用に資する付録が豊富に用意されています。以下、弊社の数ある教材のなかから選りすぐりの主力商品を紹介しましょう。

## 【美術】 『美術資料』

「美術」との出会いを支え、「もっと知りたい」に応える「生涯使える」美術資料集の決定版として満を持して来



年度改訂します。改訂のポイントは現場の声を大切にしてページを増やし、一層の資料性の向上を図っている点です。表紙はミニチュア作家として有名な田中達也氏にこの美術資料のために身近な美術館をモチーフにした作品を制作していただきました。

さらに秀学社オリジナルプラットフォーム「十（ふらす）まなび」の第一弾として『デジタル版美術資料』も来年4月の同時リリースを予定しています。

## 【国語】 『新しい国語のワーク』

国語の力を習得する「取り組みやすい」「やる気を引き出す」「学びを丁寧にかかす」の三つの工夫を柱として、来年度は「超デジタル」を掲げて、付録のさらなる充実を図りました。具体的には、記



述問題の解き方の動画や、話すこと聞くこと、NG動画のQRコンテンツ、スマホで学ぶ漢字学習や小テスト作成システムを新しく提供します。

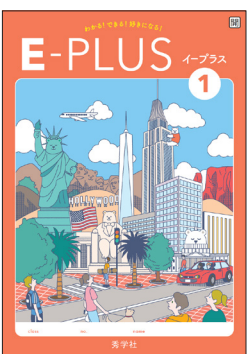
## 『くりかえし漢字』

平板になりがちな漢字学習を随所におもしろイラストを掲載することで、使用する場面の例文を「イメージしながら書いて覚える漢字帳」としてリニューアルしました。タイトルの下にあるQRコンテンツには、字形の似ている漢字や同じ読み漢字等、間違えやすい漢字を確認できる動画解説が収録されています。



## 【英語】 『E-PLUS』

スマートフォンステップで基本文が身につく「生徒のわかった」を引き出すワークです。本誌に加えて「基本文ドリル」のQRコンテンツで繰り返し自学自習することによって確実に基本文が身につく問題数を確保しています。リスニングテストは毎年改



定し、来年度4月リリースの最新版では、今年1月の大学入学共通テストで話題になった「一回読み」を新たに設けます。また、手軽に単語テストが作れるWeb版システムも提供します。本誌とさまざまな付録教材を活用すれば、基礎・基本から入試対策までをトータルにカバーできるワークに仕上がっています。

## 『英単語99%』

書名は、入試・英検5〜準2級の過去問を分析し、各試験に使用された英単語のうち出題頻度合計99%（2200語）を見出し語として掲載しているところからきています。レベル毎にステージ0〜5の全6章構成で、例えば0〜3



章まで学習すると、英検3級の試験に出た99%の単語を覚えたこととなります。なお、QRコンテンツとしてWeb版テストがついていますが、一括採用校にはWord版も提供します。

以上、来年度の主要教材を紹介しました。詳しくは右ページのQRコードから弊社のWebページを是非ご覧ください。2021年も間もなく年末を迎えようとしています。昨年来のコロナ禍が社会全体に影を落としており、教育界も例外ではありません。今後も時代の流れに対応できるような教材開発を進めていきたいと考えます。